

八王子市周辺のツバメの営巣調査

ツバメはなぜ北側と南側に巣をつくるのか？

Study of Nesting Conditions of Swallow *Hirundo rustica* around Hachioji City — Why Does Swallow Make a Nest on the North or South Side of the Building? —

ヤマザキ学園大学動物看護学部ツバメ研究グループ

三上幸栄¹⁾, 橋弥生¹⁾, 下川結¹⁾, 萱沼彩乃¹⁾, 金井ゆり¹⁾

指導教員 岡崎登志夫¹⁾

1)ヤマザキ学園大学動物看護学部 動物臨床検査学研究室

キーワード：八王子・ツバメ・営巣・育雛・方角

1.はじめに

ツバメはスズメ目ツバメ科の渡り鳥で、春に南アジアから日本に渡り、秋までの間に育雛し、再び南の国に渡る。ツバメは古くから我が国に生息し、昔話や縁起物など幅広い分野で人々に親しまれている。巣の材料は主に泥や枝、自分たちの羽を編みこみ、唾液を使って固め、お椀状の巣を作る。どこにでも作る訳ではなく、天敵のカラスや鷹などから雛を守るために、人通りが多い場所や天敵の足場が少なく遠目から見えにくい位置に巣を作る傾向がある。壊れていない巣が多くある場所ほど安全であるとツバメは認識しているようで、同じ場所で子育てをするツバメをしばしば見かける。しかし、巣が確認された建物を全体的に見てみると、多数の巣が作られている場所とほとんど作られない場所が存在する。この差は何か、営巣の方角や場所の環境条件を明らかにすべく、調査した。

2.調査方法

- ①八王子市及び周辺地域の駅周辺にあるツバメの巣をカウントした。
- ②ツバメの雛の有無をカウントした。
- ③巣が確認された場所の方角を、図1の例のように決定した。
- ④地面から巣までの垂直の高さを計測した。
- ⑤正常な巣の他に壊れた巣・人工巣も含めた。



図1. 巣がある場所の方角決定

3.調査結果

A. 営巣の地域分布

まず、調査した地域と巣の数を色を付けた印で表すと図2のようになった。山など緑が多い場所に近いほど巣が多く確認でき、緑が少ない場所は巣があまり多く確認できなかった。但し、稲田堤では緑は少ないが、多く確認された。

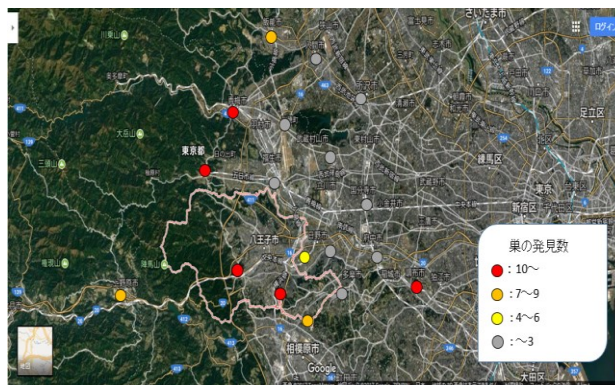


図2. 八王子市周辺のツバメの巣の分布

B. 営巣場所と方角

建物のどの位置に巣を作るか、大きく3つのタイプに分けられた。

- ・壁の表面に作る a タイプ
- ・壁の裏面に作る b タイプ
- ・設置物（釣りもの）に作る c タイプ

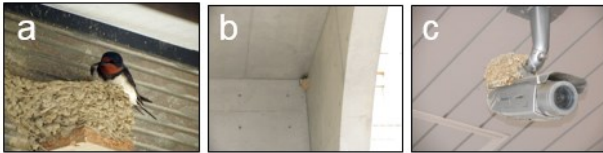


図3 営巣場所

これらの営巣場所と方角の関係がわかるように、棒グラフに表すと図4のグラフのようになった。すなわち、営巣の方角は北と南に多く、営巣場所は、北側にいくほど壁の裏面に巣を作り、南側は壁の表面に巣を作る傾向が見られた。

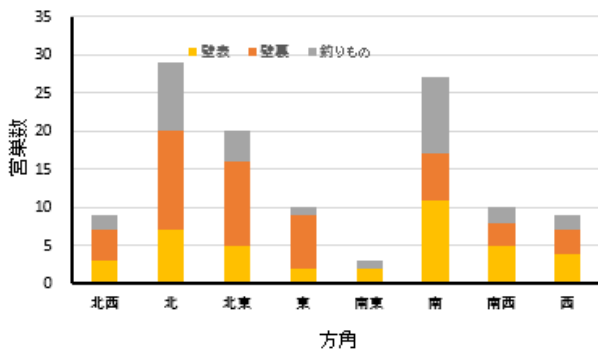


図4 営巣場所と方角の関係

また、緑の多い場所と少ない場所の営巣を比較すると、緑の多い場所は南側、少ない場所は北側に多かった（図5）。

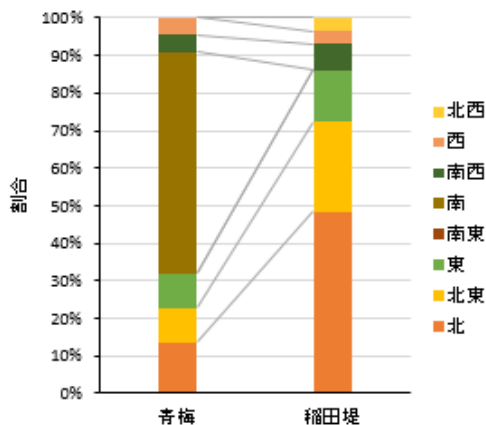


図5 地域ごとの営巣場所比較

C. 育雛時期と気温の関係

南北の巣について、育雛されていた営巣数を調べてみると、5月後半～6月前半と7月中旬に育雛をしている巣が多く確認された。ツバメは1羽あたり2回育雛をされるとされており、図6の棒グラフのように二山の形になった。育雛時期と気温・降水量(図6折れ線グラフ)を照らし合わせてみると、気温20℃～30℃で100～200mmの降水量の時期に育雛を行っていた。

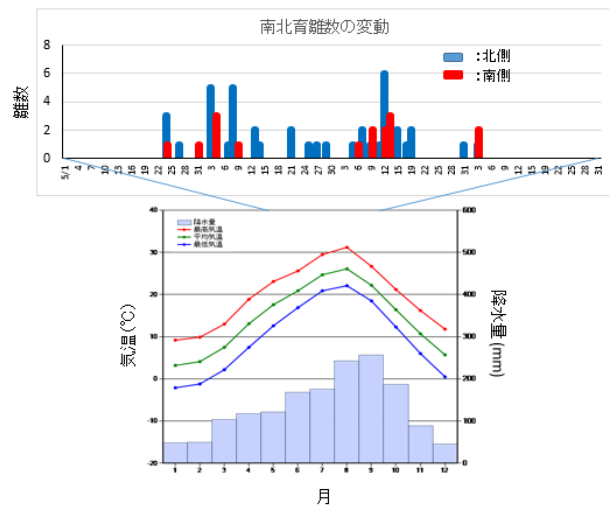


図6 八王子周辺の育雛数と気温 (Time J net)

4. 考察

八王子市周辺のツバメの営巣場所は、緑の多い山際（青梅、高尾）に多かった。ツバメは餌が豊富にある場所を求めて渡りをするのではないかと考えられているが、一般に山際はそれが豊富である。今回の調査で都市部の稲田堤の営巣数も多かったが、付近に川があり、餌の昆虫が多いためではないかと考えられた。山際の営巣場所は南側に多く、人通りの多い都市部では北側に多かった。育雛は平均気温が20℃～30℃の間で行なわれており、温度が営巣場所を決める要因になっているのではないかと考えられた。山際は標高が高く涼しいため、南側に営巣し、都市部はコンクリートなどからの照り返しによる高温を避けるため、北側に営巣するのではないかと考えられた。

参考文献

- 1) 北村 亘：ツバメの謎、誠文堂新光社（2015）